トイ・ドクター（おもちゃのお医者）物語

2001 年 2 月発行

荒川区社会福祉協議会
荒川おもちゃ図書館
（おもちゃの病院）

〒116-0003
東京都荒川区南千住
１－１３－２０
電話 03-3802-3338
Fax 03-3802-3831
都電荒川線三ノ輪橋　２分
地下鉄日比谷線三ノ輪５分

まえがき

いま、オレは、ナンデ、こんなことをやっているンだろう？

指先で回しているミニドライバーを、小休止して、考えこむことどもがあります。

私の修繕歴は 4 年ばかり。20 数年以上も続けられておられる先輩方の、お話も聞いたことがあります。

ナンダロー？

メカが面白い？　　ウデ自慢？

リサイクル？　　時間つぶし？

社会参加？　　お子たちの笑顔？

おもちゃ図書館にあそびに来た障害のある児の顔を、おそるおそる撫でてやると、不思議そうな瞳でオレの顔を覗き、うかがう。

しかし、オレは、この子たちには何ひとつ応えられない。

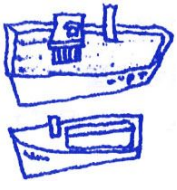
でも・・・・・トイ・ドクターを続けていってみたい。

なにが、この途の先にあるような気もするから・・・。

2000 年夏
玩具医寺子屋
世話人　小林保ベエ

子どもを悲しませてはならん！

　おもちゃの図書館には、たくさんの元気なお子さんたちが遊びにきます。荒川おもちゃ図書館にやってきて、そこに 3.000 点にも及ぶたくさんのオモチャを目にした子どもたちは、遊びに夢中のあまり、可愛いオモチャたちをついつい傷めてしますことがあります。貸し出されて家に持ち帰ったオモチャを、思わずポッキリ折ったりでもした子どもは、その悲しさに打ちひしがれて「ごめんなさーい!!」と首をたれてきます。「よしきた。だいじょうぶ、大丈夫」とトイドクターの出番です。
修繕するにはけっこう苦労することもありますが、悲しそうな子どもの顔を思い浮かべ、その姿をおのが孫たちとだぶらせたりして、「よしきたッ、なおしたるぜ!!」とばかり、常日頃、おのが技術不足の悩みなるも忘れはて、嬉々として、壊れたオモチャの修繕に取り組み始めるのでした。



メンバー登場

　トイ・ドクターとして、いま、ボランティア活動に加わっている方々は、ハナはトシゴロ６０歳代、７０歳代のいわゆる現役から退けられてた人たちで、この年代特有の頑固さとそれなりの職人的なワザと、ヒューマンなやさしさをたたえた、いわば〝おもしろ集団〟に属している方々のようです。というと、みんないかにも〝好好爺〟ばかりみたいですが、どっこいそこは世の習いで、結構スケベじじいもおれば、がめつい奴もおり、それなりに人生の楽しみをより深く追い求めることにかけては、人後に落ちないというシタタカな面々です。

　こういった方々が、腕によりをかけて、自分たちの古きよき時代の想い出を呼び戻そうと集まりだしたのが、20 数年前にできた〝目黒おもちゃ病院〟のそもそもだったようです。

　そこで互いに腕を競ったり、磨いたり、はたまた、その影響をうけ合ったりして、各地にできた〝おもちゃ図書館〟の運動と結びついて、トイ・ドクターが世の脚光(?)をあびるようになってまいりました。

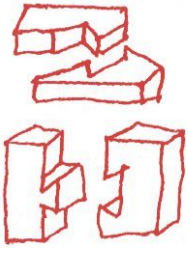
むかしのワザを、いまこそ活かす

　トイ・ドクターが幼いころには、今の世と較べれば、ロクなオモチャはありませんでした。
　おダイジンのお子たちでさえ、ただ飾っておくものとか、せいぜいダッコしてそのあどけなさを眺めてはウットリと楽しむぐらいのものでした。
　世の中がグングンとめまぐるしく変わりだした第２次世界大戦争に突入したころになって、模型ヒコーキづくりやラジオづくりの楽しみがひそやかに始まり、戦後、青年期の、何もかも戦争のためということで、すっからかんのモノ不足の時代になって、いやでも自転車修理や家具の補修などをやらざるをえなくなり、自然とウデが磨かれ、若者たちにトイ・ドクターとしての素地が育ちはじまりました。
　トンカチやカンナ、包丁研ぎ、それに、いま話題のナイフの使い方など、ウデ自慢を鼻先にぶらさげるほどに、実に見事にそのワザを仲間たちの眼の前でみせてくださる方々がたくさんおられます。
　トイ・ドクターになられた方の中には、電気や機械の仕事を経験された者もいますが、それ以前に子どものころに果たせなかった〝オモチャいじり〟の夢を追っている人たちも、かなりおいでのようです。
　いいかえれば、リタイヤ組が〝先祖がえり〟したみたいなもので、目の前にこわれたオモチャが差し出された時の表情は、まさに〝ガキ〟そのものなんですネ。

オモチャは、高齢者にとってもお友だち

　オモチャたちは、時代の流れと共に、どんどん、どしどし、果てしなく変わっていきます。とくに、電子関連の応用は、
家庭用の電気製品にもひけをとらないぐらいです。
　けれども、オモチャはあくまでも、お子たちの遊び道具なのです。遊び方がよくわからないようなものを造っても、お客さま方は相手にしてくれませんよネ。
　ここが私たち〝老人力〟トイ・ドクターのネライ目なのです。むかしホビー少年として自負した腕前も、現在の電子知識には太刀打ちできません。かく言う私も、我が家では、パソコンはもちろんのこと、コードレス電話にしろ、ファックスにしろ、ビデオ・テレビさえも、マニュアル本と首っ引きで四苦八苦して取り組んではいるものの、その機能を十分に利用できないでいる有様なんです。
　オモチャたちは、こういったものに似た機能をたくさんとり入れて作られているものの、お子たちが遊び道具として理解できるワクの中だけでつくられているのです。だから、私たち半ボケの老人も、お子たちと一緒に遊べるのですネ。遊び方がわからなければ、こわれてもなおせませんしネ。

　そして、オマケに、いま世の中に出まわている電気製品やプラスチックのことんかも、オモチャと接することによって、少しはわかってきたりもします。
　これは、中高年の方々や、高齢の方々にとっても、（若返るのにはほど遠いとしても）世の中の最近事情とと取り組める方法にはなります。トイ・ドクターを名乗っておられる方々は「トシのわりにはお若い」とほめられたりするヒミツが、ここにあるもかもしれません。



ボケ防止にも役立つという話

　さて、実際に、お客さまからさし出されたオモチャっを眼の前にして、トイ・ドクターの頭の中には、まず戸惑いがかけめぐります。たいがいのものは、初めてご対面させていただくオモチャだからなのです。
　だいたい、どこをどう触ったらよいのやら、どうやって遊ぶものなのか、見当もつかないオモチャばかりなのです。
　故障の様子はひととおり〝お客さま〟から聞かせていただきますが、チビッ子のひとことの報告のほうが役立つ場合が多いようです。お子さま方に、わかりやすくご説明していただかないことには、私どもには、さっぱりわかりませんのでございます。
　付き添ってこられたお母さんには、どのくらい長く使っていたかどうか、電池はいつ替えたか、入れっぱなしになっていたかどうか、こわれてしまった破片はどうしたか、など、オモチャの生い立ちとか、おおむね外まわりのことを聞いたりします。
　実のところは、こんなことで、チビッ子とのお話のやりとりを楽しんだり、眼の前に横たわっているオモチャとどう取り組もうかと、時間かせぎの思案中なんです。
　最近のおもちゃのほとんどは、どこから開けたらよ

いのか、よくわからないものが多いのです。とっくり返し、ひっくりかえしても、半日も、あるいは半月も分からず、ついには電動ノコギリでタチワッタというツワモノもありました。それでも、その珍奇さにココロ奪われずに、冷静に解体しているうちはいいのですが、いったんその仕組みの難しさにのみこまれてしまうと、ネジやバネ、カムなどの大小や、とりつけ位置などをすっかり忘れちまったりして、やれやれ故障はなおしたものの、作業の帰り途である組み上げに大汗をかくことになります。〝行きはよいよい、帰りはこわい〟と心の中で歌いつつ、いつも自戒している始末です。

　このあたりの取り組みのやりとりは、まさにボケへの坂道をまっしぐらにころげ落ちつつあるトイ・ドクターの年齢層の方々にとっては人気あるひとつの(内緒の)理由かも知れません。

ダメでモトモトという図々しさも・・・

トイ・ドクターの作業の実態は、さぞたいへんなことのように想像されがちですが、日常ぶつかるトラブルのほとんどは電池切れや、プラス・マイナスの逆入れや、電池自体の老化、ショートなどによる電圧不足、その接点の汚れやサビなどです。このように、故障の原因の大半は、電池関連のトラブルなのです。

また、乗り物のオモチャでは、車軸の折れや軸受けのこわれ、スイッチなどの接触不良、ハンダのはがれなんかで、夢中に遊ぶあまり、上に乗ってしまったり、力のかけすぎによるものが多いようです。

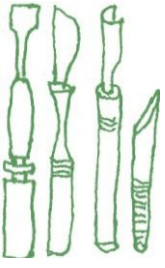
お子たちから与えられた情報をたよりに、あっちゃこっちゃとチッチャなドライバーをこまめに回しながら、故障個所に近づいていくのが、治療へ近づくたもの極意みたいです。

はじめから、思いこみで、早々と解体作業へとつっ込んでしまうと、迷路のトリコになりやすく、なおしているのか、こわしているのか、わからなくなってしまいます。

なにごとにも、手順をキチンと踏んでいくことが大切なようです。

また、けっして〝何がナンデモなおしたるぜ〟なんて大上段にふりかざさず、・・・内緒のはなし・・・

どうせこわれているんだから、ダメでモトモトくらいの図々しさも、ときにはあってもよいのでは・・・という気もします。
　ときには、これ以上こわせないというくらいに破壊しつくされた電車やクルマに出会うこともあります。けとばしたり、
飛び乗ったりした結果でしょう。でも、こういうザンニンな
姿を目前にすると、トイ・ドクター特有とでもいうのでしょうか、ヘンにファイトが湧いてきたりするのが、フシギなところです。
　万全ではないにしても、なおったオモチャを高くかかげて、〝お客サン〟といっしょに小踊りしたくもなります。やはり、トイ・ドクターって〝ガキ〟そのものなのですかネ。



道具のないのも芸のうち…という話

この道に入り、やたらと工具や道具に凝る人がいます。なにごとによらず、ヒトはモノをあつめるという楽しみの穴っこに浸るのが大好きなようです。

ことのほか、トイ・ドクターたるもの、10ｋｇを優に越えるほども、トランクの中につめ込んだ七つ道具をひけらかしながら登場しないことには格好がつかない、という方をたまに見かけることもあります。 また、それ故、自前の工具類を用意しないことには、トイ・ドクターにはなれないと思っている方もいます。自作の自慢の道具を仲間内に披露し合って楽しむのは、たいへんけっこうなことではありますが、度を越して身動きならぬほどの道具の自慢話はコッケイに見えることもあります。

さて、実際のところトイ・ドクターはどの程度の工具類を使って修理しているのでしょうか。

・＋ードライバー大小２本、ときには眼鏡用の極少のもの。
・ラジオペンチとニッパー
・ハンダコテとハンダとペースト
・小ヤスリ　・ちっぽけな紙やすり・カッターナイフ
・ピンセット・小型テスター　・ホビー用小ノコギリ

小型テスターを除けば、すべて、ごくごく普通の、

どこのご家庭にもあるようなものです。それに、おとしよりには必携のムシメガネなどが加わります。
　わが荒川おもちゃ図書館に用意されている道具類では、上記に加えて
・万力　　・ドリル　　・小槌　　・小ネジ類
・粘着テープ類　　・各種接着剤　　・潤滑油
・こわれたオモチャたちからとりかずした移植用の部品たち
　つまり、自分で持っていきたいもので、いちばんカサバルのは、日ごろご愛用の小型テスターとハンダゴテ、ラジオペンチにドライバーぐらいのものです。
　私は、わが荒川おもちゃ図書館に出かける時は、全くのテブラです。こわれたオモチャをばらしたり組み立てたりするためのテーブルと、わずかばかりだが、工具類が用意されているからです。わが荒川おもちゃ図書館では、だれでも、いつでも好きな時にチィチャなドライバーをクルクル回す楽しみを味わえるような場をつくりたいと努めています。
　どうぞ、いま手のあいているアナタ、遊びに来て下さい。
けっこう面白いですよ。

トイ・ドクターは、オカネが儲かる？

　トイ・ドクターに稼ぎはありません。儲かることは絶対ありません。これは保証します。
　それでは、出費の方はどうでしょうか。
　むかしから、「ケガとベントーは自分持ち」と職人さん方の負担割はきまっています。加えて、トイ・ドクターには、行動費（交通費など）や道具類の購入と維持費、油脂や接着剤やハンダなどの消耗品費などなど、トイ・ドクター活動のすべてについて出費を伴います。
　そのトータルはどれほどなのか？　これを計算した方を、かつて聞いたこともありませんが、年寄りのひまつぶし代とでも言ったらいいのでしょうか。つまり、種々あるシニア講座への参加費くらいと思ったらよいでしょう。これが多額と思うか、わずかだと思われるかは、それぞれの懐具合と、参加によって得られる満足度とのかね合いとによるところでしょうネ。
　ところがです。内緒の話、ちょっぴりですが、オカネが転がりこむことがあるんですネ。
　日本中のどこの自治体も、また、その関連団体も、近ごろは、盛んにヒト集めのイベントを開きます。その目玉のひとつとしての〝おもちゃの病院〟は、人気を集めています。

このイベントにトイ・ドクターがお招きいただけるのです。しかして、こういったお祭りにはキチンとした予算が立てられるのが普通なんですネ。オベントーをいただけるのはもちろん、お手当まで頂戴できることさえあります。

　その額は、一日コースで 3.000 円、二日がかりで 5.000 円ほどが相場みたいですが、そのうち、源泉徴収税 10%を天引きされるのは覚悟してください。年末には源泉徴収票が郵送されてきて、思わず「こんなに稼いでしまったのか」と、当のご本人が感嘆されているヒッパリ凧の名医もおられます。

　何ごとにも〝苦あれば楽あり〟で、チョッピリは楽しみもあったほうがよろしいようでして・・・ナ。

オモチャにもある専門診療科目

・神　経　外　科

おもちゃの病院に持ち込まれるオモチャのこわれ方をみていると、いくつかの原因に分けられるようです。まず、がぜん多いのが、電池で動かすオモチャたちのその肝心かなめの電力不足、モーターの不調、接点のよごれや接触不良、摩耗などによる電気の流れ方の不良などがあり、スイッチ類は接点も多く、鍵盤オモチャなんかは、そのキーの数の倍ほどもあります。まるで、スイッチのカタマリおもちゃの感があり、すべて電気の導通テストの対象になります。 IC チップの半断線やその回路や配線基板のよごれやはがれ、ハンダづけの不適、などなど、電気の流れ自体阻害されて、動かないとか、音が出ない、灯りがつかなかったり点滅しない、といった故障は、神経外科として分類されます。治療法は、そのもズバリで、それぞれの臓器（部品）を替えたり、神経（リード線や基板など）をつないだりして、目的に合った電力を流すようにします。

・整　形　外　科

こわれているところは、外から見てわかるところだけではありません。車両の場合、車輪に異常がみられれば、たいがい車軸がダメです。加えて、これを支えている車体にもひび割れが走ったりしています。ギア

類が割れていたり、クランクが曲がったりもしています。これは、元気なお子たちが、オモチャたちの動きに感激のあまり、押さえつけたり、飛び乗ったりするからです。ぬいぐるみ人形のおサルさんやウサギさん、オルゴール仕掛けのものなど、ゼンマイや電池で動くオモチャもまた、お子たちは押さえつけることが多いようです。

　これらのこわれやすいポイントは、メーカーさんもこわれにくいように心掛けてつくられているのだとは思いますが、どうして、どうして、お子たちのそのたくましい腕力、脚力には抗すべくもありません。硬質塩化ビニール製のオモチャは意外と弱いのも困りものです。こういった破壊には、当然のようにメーカー保証はありません。部品を頒けてくれるところもありません。常に、あらかじめ臓器（部品）が貯えられていた場合には、その恢復は極めてラッキーということにはなります。

　つまり、この治療の一段目の難所は、臓器（部品）のあるなしに関わります。次の手立ては、似たような部品の転用を考えます。これも、幸不幸がつきまといます。奥の手は、部品の手づくりということになります。部品を手づくりするということは、そのものによって、種々雑多ですが、なかなか、どうして、たいへんな場合が多うござんすヨ。ここは、トイ・ドクターの技量と感性と、工具類の設備と利用のウデなどに関

旋盤などの工作機械もあるそうです。個人のトイ・ドクターの方でも、グラインダーやドリルはもちろんのこと、電気溶接機やガスバーナー、高速金属切断機などをお持ちの方もおいでのようです。

整形外科の仕事は、多種多様なので、ついつい深みにはまってしまって、このような重装備の結果となってしまったという経過もありましょう。

しかし、これを支えてきたものは、何といっても〝こわれたオモチャをなおしたい〟という執念に支えられているからだと思います。

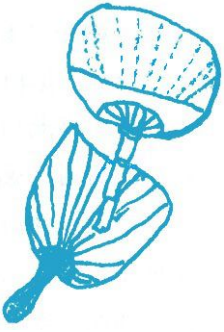
・美　容　形　成　科

近ごろは、男性でも女性でも、ご自分のお顔や、スガタ・カタチを美しく変えられるようになりました。オモチャの世界でも、古典的なものとか、珍奇なものなど、かつての美形（ビケイと読むんだそうです）をとり戻そうと、おもちゃの病院を訪ねられる方があります。

江戸中期作（本人申告）の上品な顔立ちの錦（にしき）を召されたお人形は、裾をおまくり申し上げるのさえ手が震え、神々しくさえありました。

悲しいかな、頬が 2.5ｃm^2ほど剥落しておりました。残念ながら、ゴフン塗りの名人は仲間うちのトイ・ドクターにはおりません。ちょうどその時、同じ会場で開催されていたイベント＝地域産業展＝に人形師がお出でなのを知り、修復をお願いでき、助かりました。

　そんな貴重なものではなくとも、お人形というのは愛着の湧くものであり、汚れて衣装やぬいぐるみ動物をきれいにしたり、ほころびを縫いつくろいたいのは人情ってものです。
　そこに登場したのが、縫い物名人のトイ・ドクターです。
女性です。この方々はいわゆるオモチャの機能面の修繕はなさりませんが、修繕のために裸ンボにされたぬいぐるみなどをアルコールで清拭したり、縫い上げてくださったりして、それはそれは美しく仕上げてくださいます。この分野も新しい専門科目となりました。



整形外科は仕上がりがミニクイときも・・・

　さて、実際にトイ・ドクターの眼の前に並べられる〝オモチャの患者さん〟たちは、どんな病状なのでしょうか。
　前にも話したように、半分以上は電源まわりの故障なので、これは眼で見たり、テスターを使って調べられます、そして、治療結果も、同じやり方で確認できます。
　次に多いのが、私たちが勝手に整形外科とよんでいる修繕です。
　近ごろのオモチャのほとんどがプラスチックで造られています。
　これらは、意外とショックにモロイのです。経年変化（収縮や硬化、変形など）も、実感として、かなり激しいものがあり、プラスチックは壊れにくく、朽ちず、じょうぶだというのも信じられません。引っぱったり、押したり、たたいたり・・・お子さんたちにしてみれば、ごくごく普通に遊んでいても、思わず、なんとはなしに、ホンのチョットとだけ、いつもよりはよけいに力を加えただけなのに、ポッキリと折れたりもするので、とても悲しくなってしまうのです。
　また、電池のふたや車軸や切り替えレバー類などは、はじめから折れたり割れたり、こわれるのがあたりま

えのような部分がかなりあります。折れたり、壊れたりした部位や部品は千差万別で、それをどうなおすかという作戦を立てるのは、このうえもないほどさまざまで、おおくは、こどもたちのありあまるパワーにも耐えられる充分な補強をするという方法しかなく、なるべく材質や色調、軟硬度など似たような部材などを探してきて、補強するのです。　まずは、この修繕に見合う材料さがしですが、これがバッチリいけばシメタものです。半分ぐらいは修繕完了の気分にさえなります。ギアやカムや電池ぶたなどは、以前に捨てられたオモチャなどから、使えそうなものをとっておきます。これがピッタリ同じものが見つかって修理できれば、ラクチンなのです。とりかえるだけですむのですからネ。

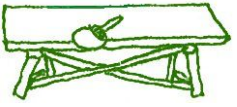
　そのために、ご用済みになったオモチャたちから解体して得られる「移植用臓器」は、この上もなく欲しいものです。

常日ごろから、トイ・ドクターたちは、気をつかって、これらのガラクタの収集に努めています。お母さん方に「こわれて捨てるようなものがあったら、ぜひください」といつもボヤイているのは、トイ・ドクターの本心なのです。

　そうできないものは、仕方なく、大へんな労力をつかって、切ったり削ったり、熱をかけて曲げたりしてから、種々の接着剤やネジ・クギなどを使って補強しますが、なんと言ってもこの部材合わせにとても苦

労しています。まさに、ここが整形外科のワザのふるいどころなのかもしれませんが、これがとてもタイヘンな仕事なのです。

　ところが、部材合わせが完璧ではなく、多少ミニクイ仕上がりになることもちょくちょくあり、ちょっと悲しくもなったりしますが、ここは機能重視という事で、我慢していただき、トイ・ドクターの美的センスのなさを責めたりしないでほしいなンて、手前勝手に思ったりもしています。



臓器移植は専門病院で･･･

近ごろ増えたオモチャに、液晶画面や楽器関連のものなどで電子部品(ICなど)多用したものがあります。
時代の最先端をいったものという先入観があり、いかにもむずかしく考えがちです。しかし、これもホントのところ、故障の有無はスイッチ類や電池なんかと同じことで、電気が通っているか、いないかという単純なこととして捉えられます。
いかなるトイ・ドクターだろうとも、まさか、ICを造ったり、液晶画面を改造、製作できるものではありません。単にこれらが機能しているかどうか、テスターでチェックしてみるのが、せいぜいの技術の限界です。
ところがです。その機能のよしあしはわかっても、これらの部品類の種類の数たるや、また、その分化はとてつもない種類にのぼり、そのパーツを常に揃えておくことは全く不可能で、どんな専門修理店でさえもそれはできていません。それはそれは大へんな量なのです。メーカーに修理を出したときでさえも、「もう、その部品はありません」と断られた話をときどき聞きますが、メーカーでさえ部品類は特異なものばかりなのです。しかも、私たちが、その部品の故障を発見できても、メーカーはそれらの電子基板(ICチップ)などの組み込まれたもの）の回路ベースを市販はしてくれません。トイ・ドクターの手出しできる電子部品は、

せいぜい秋葉原で小売りされているような、ごくごく一般的なものに限られるのです。それにも負けずにトイ・ドクターたるもの、そのメンツにかけて、ガンバッています。 うまくなおるときもあり、ダメなときもあるのは当たりまえなんですヨ。患者さんにとっても、トイ・ドクターにとっても、故障個所によるラッキー、アンラッキーはつきものです。そこで、長い歴史のあるおもちゃ病院では、とても力及ばないとは知りつつも、テレビやパソコン、その他の電子製品などを常日頃、街中からひろってきておいたりして、おもちゃ病院の外来患者さんが少ない時などに部品採取をし、かなりの量の貯蓄庫を用意したりしています。しかし、それは全体からみると、マッタク微々のビビたるものなんです。

　このような努力の末に貯えられた、いわば移植用臓器を修理に活用しようというのです。それでも、わずかといいつつも、修理に役立つものがあるのは、うれしいですネ。

　わが荒川おもちゃ図書館では、歴史も浅く、とても、このようなやり方はまだできていません。そこで、いまのところ、
電子関連その他、手に負えない患者さんたちは、おもちゃ病院の大本家である目黒のおもちゃ病院に入院・治療をお願いしたり、または親切に対応してくださるメーカーさんに修理をお願いしているようなわけです。なんだか、人間社会での病気のとき、専門病院まわりをするのと似ているのも面白いですネ

トイ・ドクターになるには

マスコミ各社の過熱ぎみの取材のおかげで、トイ・ドクターの活躍ぶりが世に広まりました。家庭では粗大ゴミ扱いのリタイヤ連の興味も、ささやかに世間の片隅で始まった〝おもちゃなおしの運動〟に目を注ぐようになりました。

時流に乗ったとでも言うのでしょうか、日本中の各地の公民館や児童館などで、おもちゃ図書館やおもちゃの病院などが創られ、そこで活躍されるトイ・ドクターの養成講座も盛んに開かれています。

その講習の内容は、それぞれの先生方のたいへんなご苦心によって、まことに多彩で、ユニークなもののようです。

大筋として、①ボランティアとしてのトイ・ドクターの活躍ぶり、②電気部品の機能、③故障の発見と修理、④道具と実技、⑤電池と接着剤、⑥修理実習、てなことを教えていただくわけですが、先生方の力点は、まったく個性的で、当然のことながら、実にさまざまです。

次に、各地で行われた養成講座のいくつかのスタイルを拾ってみます。

１．各地の自治体や公民館などの主催によるもの

広報や新聞のローカル版などを注意してみてください。

有料なものや無料のものとあり、２日間のコースや、10 回ほどのかなりボリュームあるものなどと、マチマチで受講時間帯も土曜・日曜と勤め人向きのや、ウイークデーのまっ昼間のリタイヤ連向け、ゴジカラ男の苦手な 18：00 からの講座などもあります。ご自身の都合に合わせて探してみてください。

２．全国に広く講座を展開しているのは、中野の薬師寺堂　近くに本拠を置く〝おもちゃ病院連絡協議会（代表＝松　尾達也氏）〟で、自治体などと共催（無料の場合が多い）で、あるいは協議会独自（有料）に、実に多くの、トイ・ドターのタマゴを育てています。次の開講の時と場所や内容など電話され、直接お聞きになるとよいでしょう。

　ここでそだてられたトイ・ドクターの練習生（インターン）たちは、協議会の傘下にある各地のおもちゃ病院などに紹介され、研修にお励みのご様子とか、仄聞しております。

３・簡単にトイ・ドクターになる方法もあります。

　お住いの近くのおもちゃ病院やおもちゃ図書館をやっている日に、直接尋ねられ、「トイ・ドクターになりたーい！」と伝え、仲間に迎え入れてもらうんです。たったこれだけのアクションを起こせば、あなたは、その時からトイ・ドクターなんです。

　つまり、トイ・ドクターというのは、特別な資格でも、何でもないのです。参加することが「資格」なんですヨ。

ちなみに、わが荒川おもちゃ図書館では、道具類は一応揃えてありますので、手ぶらできてください。その時から、あなたはトイ・ドクターとなり、壊れたオモチャと取組むことになります　あとは、先輩諸氏と仲よく親交を深めながら、ウデを磨いて下さい。
あなたの技量次第では、先輩諸氏にとって、技術情報源として珍重・尊敬されたりすることが良くあります。殊に、電子関連技術面で、若い学生さんがもてはやされています。
ただ、どこの世でも同じことですが、殊に、年配者の多いボランティア活動なので、このやり方は、いわば、人によって〝水に合わない〟とか、〝どこでも、よくなじむ〟とかいうことが時に見かけざるを得ないのが、気がかりな点ではあります。
でも、概してトイ・ドクターの先輩たちは、いずれもガンコ者には違いありませんが、けっこう〝好々爺〟が多いので、安心して、つっこんで来て欲しいものです。
わが荒川おもちゃ図書館では、中学生5～6名と大学生のお兄さんも、〝玩具医寺子屋〟のお仲間として、ワイワイガヤガヤと、苦痛（?）な講義にしばられるわけでもなく、オモチャなおしに取組んでいます。
おもちゃ図書館やおもちゃの病院が開かれているとき、そこへ出向き、それらしいドクターにお声をかけられれば、破顔一笑、迎えてくれるなり、抱えきれな

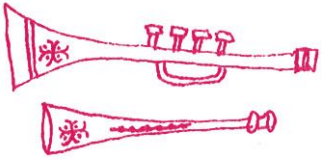
いほどの、その途の情報を伝授してくださること、請け合いです。

私は、幸か不幸か、養成講座も知らず、師と仰ごうとしていた方とも2～3回のお付き合いでした。何とはなしに始めたオモチャなおしでしたが、3年ほどの修繕経験で500点ほどの〝患者さん〟と出会ってきましたが、同じ機種や同じ症状に出会ったことは数えるほどしかありませんでした。それほどに多種多様なのがオモチャの世界なのです。興のつきない、楽しみな出会いがたくさんあります。

私たちトイ・ドクターの標語は「習いながら、慣れちゃえ・・・みんなで知恵を出し合ってなおしちゃえ」と教わりました。

独りでモジャモジャと、なおすことだけを楽しんだり、得意がっている人は、トイ・ドクターとしては基本的に失格者ですネ。

さあ、何でもござらっしゃい！　仲間と「あーでもない、こうでもない・・・」とつつきあって、はじまり、始まり・・・とござい。



トイ・ドクターの現状

〝現状〟だなんて、大げさな表現で、申し訳ありません。荒川とか足立とか葛飾とかでの、私のわずかなキャリアと、中野や目黒や浦安のおもちゃの病院をちょっと覗かせていただいただけの判断では、あまりアテになりませんが・・・、まあ、書いてみましょう。

全国組織である「おもちゃ病院連絡協議会」の登録会員は現在、約250名ほどに達しています。このほかに独立守備隊としてガンバッおられる方は、登録会員よりも更に多いものと思われます。

どちらも同じように活躍されています。双方混在で、同じ現場です。どちらかというと、長い間トイ・ドクター活動に励んでおられる方は非会員の人が多いようです。つまり「おもちゃ病院連絡協議会」の新人養成のパワーが時流にのって、近時、功を奏してきているようなのです。

ところが、この養成講座の主催団体が、東京でいうと、西のほうに偏っている傾向にあります。本家のある中野・目黒・芝では頻繁に養成講座が開かれ、各地の児童館などにおもちゃ病院がとてもふえました。したがって、トイ・ドクターの方々も、当然、ニシ東京圏在住も方々が俄然多く、ヒガシ東京圏では手薄状態が続いています。

トイ・ドクターの数の多寡で、この運動の内容や発

展の良し悪しは一概には言えませんが、一部情報によ者さん〟とのアンバランスで、せっかくお待ち申せし先生方がドライバーさえ握ることもなく、お茶を挽いておられるとか、一方で、おひとりのトイ・ドクターには毎回20件前後と、押し寄せる患者さんたちに十分な対応もできず、お茶を濁していたヒガシ東京の現状も耳にします。

おもちゃ病院の開院日も、まちまちで、毎週日曜日のところ、月２回、月１回の日曜日、または土曜日・水曜日開院の所などなど。また、開院時間も10：00～14：00とか、12：00から14：00など地域や会場などで工夫がこらされています。

私どもボランティアとしては、おもちゃ病院が、あまねく東西にかかわらず、お子たちやお母さん方に喜ばれるようになりたいと願っています。そして、ヒマなドクターや忙しすぎるドクターもなく、みんながバランスよく楽しみ深く、活躍できるようになったらいいナ、と思いつづけています。

決して、イジケ・ドクターもなく、ミスター・ボスもなく、ココロとワザで結ばれたネットワークができて、日本中、寅さんよろしく、愛用の工具カバン片手に、粋なイデタチで旅をしながらの、おもちゃ病院の交流・交歓が楽しめるようになったらナーと、夢みています。

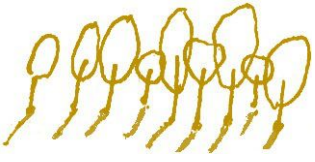
トイ・ドクターの門出

　すでに述べましたように、トイ・ドクターには、なにも資格といったものはありません。何の保証もないものも、もちろんです。まったく自由気ままな天国住まいです。
　どこのおもちゃ病院に出没しようが、ご自分のお住まいで診療所を開こうと、本来、ご自分の考えひとつでできるわけなのです。
　ところが、それ以前に、人間本来のサガ＝おサルさん同様の・・・＝が立ちはだかっています。つまり、群（ムレ）の中にいないと何もできないという習性があるのです。この中には、技術習得とか、世間とのつながり方などの大事な要素があり、無視できないものですが、ともかくおサルの軍団よろしく、どこかにつながってないと、せっかくトイ・ドクターになった意気込みも花開いてくれません。
　おもちゃ図書館で、すんなりとトイ・ドクターの仲間入りを果たした方は、そこで、仲間入りのできそうなおもちゃの病院などを教えてくれます。お好みの条件のところの目ぼしをつけて出向き、あるいは電話などで、「よろしくお願いしまーす」とやってみることです。
　先ほど書いたように、どこの社会でも同じようなものですが、ヒトの毛並みを、まずは気にするのが常識

ですが、これは仕方がないこととして、ともかく、ウデの良し悪しは問わず、「オモテャなおしをやるんだ !!」という共通の心情に賭けてみることです。この共通の心情の中には当然のことながら、もっと大事な要点である「永続性」への誓いがなければなりません。この世界ではチャランポランは、何よりも一番嫌われるんです。

　初めてオモチャとの出会いはコワーイものです。いきなり、今まで触れたこともないオモチャ、しかも、こわれているんです。なかにはほんのちょっぴりイジワルな先輩もいたりして、新入生を試してみたいのか、いきなり、修理のむずかしそうなのをよこしたんじゃないかと勘ぐりたくなるような場面もありますが、実のところは、各人の眼の前にくる〝患者さん〟は、全くのランダムで、病状の軽重は、あらかじめ計り知ることはできません。

　夢々、愚痴をこぼしたりせずに、みんな同列ナンダという気分で、ひたすらに、仲よく、仲よく楽しんで下さい。



荒川おもちゃ図書館に全員集合

〝おじさんはネ、トイ・ドクター、おもちゃのお医者さんなんだヨ〟と、初めて会った見知らぬお子たちに話しかけたことが何回かあります。結果、どこでも、いつでも、どの子も、そのとたんに心を開いてくれました。息せききって、〝おじさんの家どこ？　行ってもいい？〟という子もいました。いまのお子たちは、情報にとても敏感なのですネ。とっくにトイ・ドクターという存在を知っていたのです。〝大きくなったら、ボク、おもちゃのお医者さんになるんだ〟という夢を語ってくれた子もいました。子どもたちと、その愛するオモチャたちとのこころの交流は、私どもおとなが考えているよりも、ずっとずっと深いものだということが思われます。

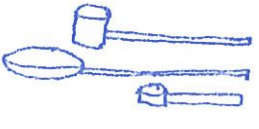
トイ・ドクターは、こういうお子たちと、オモチャというものをはさんで、深くかかわり合うことができるように考えます。

これは、一応、現役を退いた〝むかしホビー少年たち〟にとって、パラダイスを見つけたよろこびを味わえるってもんです。

ずっとしまい込んでいた古い道具箱に埋もれていた小道具たちも、小踊りしだしました。今までごぶさたしていた最新の武器（電動工具や接着剤など）たちともご対面できました。

〝近所のこどもたちは?!〟と疑問だらけだったお子た

の世界も少しは覗き見して、理解できそうな気分です。
　さアー！　あなたもトイ・ドクターになろうヨ!!
　男でも女でもなれるし、特別な資格も知識もいらないし、極端な話、その気にさえなれば、高校生はもちろん、小学生や中学生の方々も、立派なお仲間になれるんだヨ。わが荒川おもちゃ図書館では、毎年、夏休みには、中学生が5～6名も加わり、とてもにぎやかにトイ・ドクターごっこをやってます。自分のゲーム機やオーディオ機器をなおしたい、と持ち込む中学生もいます。もちろん、それも大へんけっこうなことです。
　仲間に入って、ドライバーさえ回せればよい。そうしていれば、仲間どおしお互いに影響し合って、やり方は覚えられるものなんです。みんなそうやって、トイ・ドクターになって、やってきたみたいです。
　ただし、一番大切なことは、子どもと同じレベルの遊び心を持ち続けられる、という自負心でしょう。この、〝ずーっと続ける〟ということが、何よりも肝要なんです。
　ともかく、荒川おもちゃ図書館に来て見て下さい。・・・・ネ。
〝玩具医寺小屋〟なんて、カッコイイネーミングをつけちゃったりしていますが、みんなでガヤガヤやりながら、遊びゴコロをかきたてています。



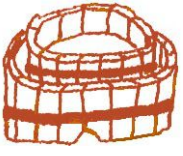
あとがき

　私が、小学４年生のころのことでした。（1940年ころカナ）
　ときたま、わが家の前の２メートル巾ほどのじゃり道をガタガタ、ゴトゴトと木箱を倒したり起こしたりする大きな音と、ボロを引きずるような音が入り混じって聞こえてくるのに気がつきました。
　ボロボロになったミカン箱ほどの木箱につかまった、すりきれたボロズボンの少年が、立ち上がりかけては倒れ、ボロズボンを引きずっては20ｃｍほど進む。むかし軍隊でやったホフク前進よりももっと過酷に見えました。そして、その音たるや、バッタバッタと大へんなものでした。
　これを見た近所の悪がきどもは「ガタガタ」というアダ名をつけ、彼をめがけて小石をぶつけていました。眼にいっぱい涙をためて、はいつくばったまま、こらえている彼を、助けようと手出しするオトナはあまりみかけませんでした。
　彼の家は、わが家から100メートルほど西のほうにあり、ここからさらに、東のほうのボッタヤという駄菓子屋まで、あと100メートルほど行くつもりなのです。
　彼は、わたしより2～3歳ほど歳上ときいていました。大へん頭のよい人だそうで、家では寝転んだまま、模型ヒコーキやらラジオのくみたてなどをやっていたそ

うです。残念ながら、多分、いまでいう筋萎縮という病に犯されていたのかも知れません。
　それでも、彼は、ガンバッて、自分でつくった木箱にとりすがり、世間の様子を知ろうと、駄菓子屋まで遠征を始めたのでしょう。
　あるとき、その彼の、大事な木箱が、ちょうど私の家の前でこわれ、さすがの彼も、大声で泣き出してしまいました。
私はウチの道具箱から金ズチとクギを持ち出していたのですが、彼のあまりにも激しい慟哭に、門の前で立ち往生してしまい、一緒に泣き叫ぶだけでした。それを聞きつけてくれた家人が、彼の家に知らせに走り、彼は背負われて帰宅しました。
　バラバラになった木箱は門前に残されました。夕暮れまでの 2 時間ほど、私は涙をすすりながら、玉石の上にしゃがみこんでいました。
　姉が、その日の私の当番の風呂沸かしを、やさしく肩ごしに促してくれ、ようやく立ち上がれました。そして、市田くんの、バラバラに壊れて木片となってしまった木箱も、ゆっくりとくべられました。
　半月ほどたって、市田くんの家から葬式が出ました。オトナたちは、一見、口をつぐんでいましたが、蔭では、いろんなウワサをささやき合っていました。間もなく、彼の家は引っ越してゆきました。
　小学 4 年生の私が聞いた「ガタゴト、ズルズル」という音は、今でも、ときたま、耳の奥のほうで、静か

に、聞こえてくることがあります。

　私がいま、トイ・ドクターとしてモソモソとした生活を送っているのは、もしかすると、市田くんの所為だったのかも知れません。



このパンフからの文章引用・転記転載をご希望のときは、荒川おもちゃ図書館トイ・ドクターズまでご連絡をください。